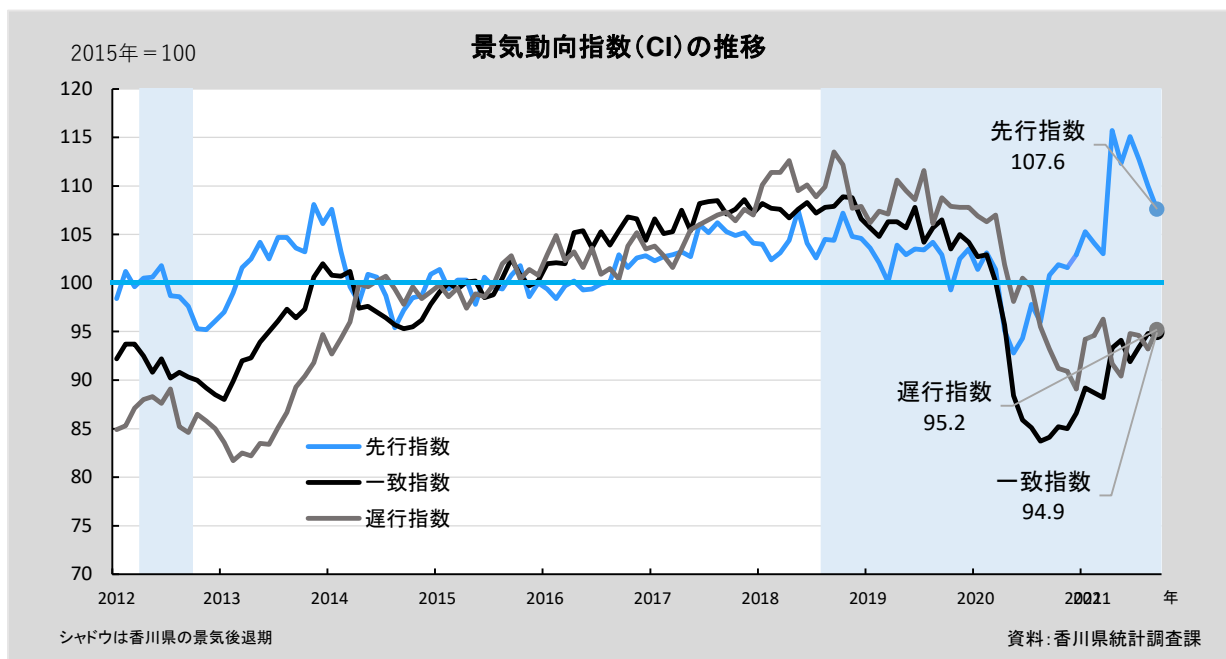


概況	新型コロナの影響で一部に下押し圧力の影響があるが、緩やかに持ち直しつつある。
個人消費	緩やかに持ち直しつつある。
住宅投資	持ち直しが続いている。
公共投資	減少している。
生産活動	持ち直しの動きが一服している。
雇用情勢	弱い動きが続いている。
貿易	輸出は増加、輸入は減少している。
観光	弱い動きの中、持ち直しの兆しがみられる。

景気動向指数(かがわ CI)

一致指数 3カ月連続上昇



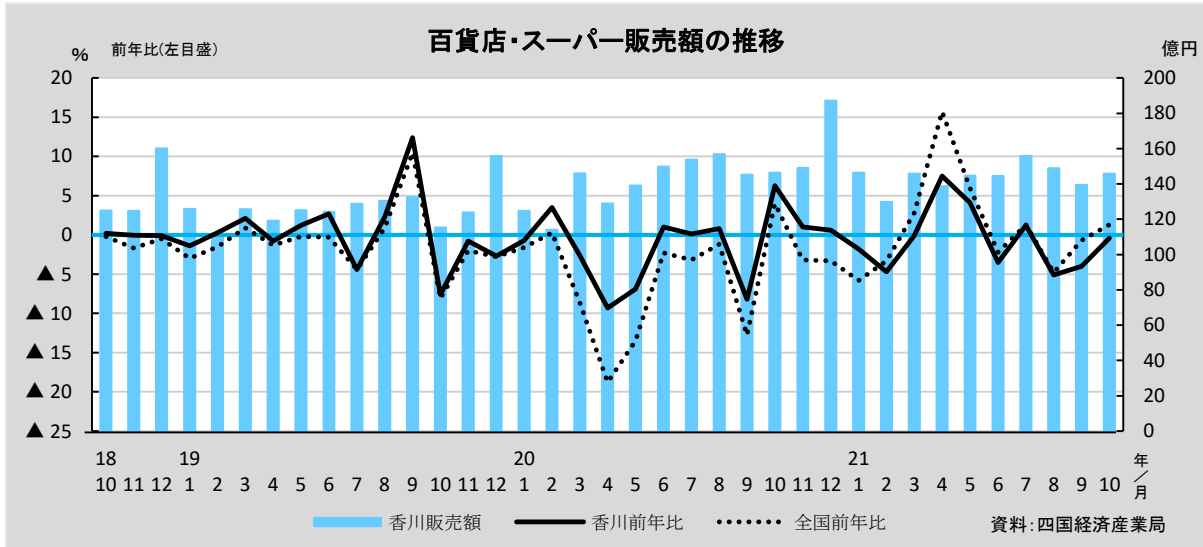
景気の現状をみると、9月のCI一致指数は94.9（前月比+0.1ポイント）と3カ月連続で上昇。CI先行指数は107.6（同▲2.4ポイント）と3カ月連続で下降。CI遅行指数は95.2（同+2.0ポイント）と3カ月ぶりに上昇。

景気の現状を示す一致系列の個別指標では、有効求人倍率、雇用保険受給者実人員、鉱工業生産指数が上昇に寄与したことにより、前月から0.1ポイントの上昇となった。

採用 景気 指標	先行系列	寄与度	一致系列	寄与度	遅行系列	寄与度
	1 新規求人数	0.78	1 雇用保険受給者実人員	0.55	1 常用雇用指数	0.11
2 乗用車新車登録台数	▲ 2.01	2 有効求人倍率	0.69	2 有効求職者数	1.06	
3 鉱工業在庫率指数	▲ 0.52	3 所定外労働時間指数	▲ 0.12	3 消費者物価指数	0.72	
4 生産財生産指数	▲ 0.79	4 鉱工業生産指数	0.02	4 家計消費支出	0.76	
5 新設住宅着工戸数	▲ 0.32	5 鉱工業出荷指数	▲ 0.65	5 鉱工業在庫指数	▲ 0.06	
6 金融機関貸出残高	▲ 0.25	6 建築着工床面積	▲ 0.35	6 法人事業税調定額	0.08	
7 消費者態度指数	0.77	7 百貨店・スーパー既存店販売額	▲ 0.02	7 第3次産業活動指数	▲ 0.62	

●百貨店・スーパー販売額

3 カ月連続減少 ↓



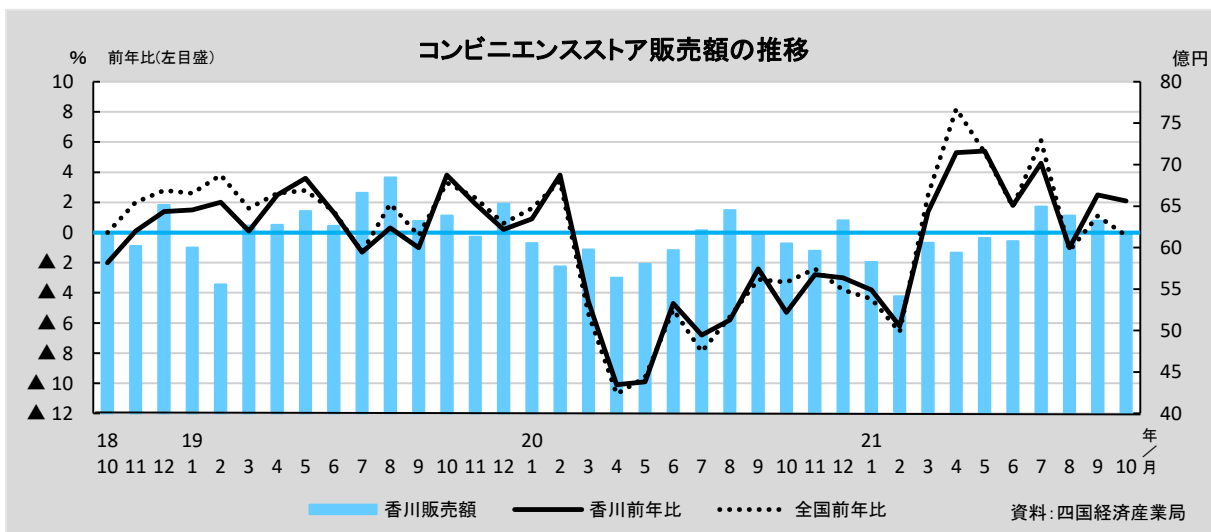
2021/10月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	119,573	51,629	1,069,574	3,057	5,220	27,281	180,695	495	1,457,524
前年同月比(%)	▲ 3.1	▲ 13.9	1.5	4.8	▲ 19.9	▲ 70.8	46.2	▲ 35.0	▲ 0.4

10月の百貨店・スーパー全店(84店)の販売額は、145.8億円で前年同月比▲0.4%と3カ月連続で減少した。気温が高く秋・冬物衣料の動きが悪かったことから「衣料品」が前年同月比▲3.1%、婦人靴やバッグなどの「身の回り品」も同▲13.9%と前年を下回った。

一方、「飲食料品」は内食傾向が強まり同+1.5%となった。

●コンビニエンスストア販売額

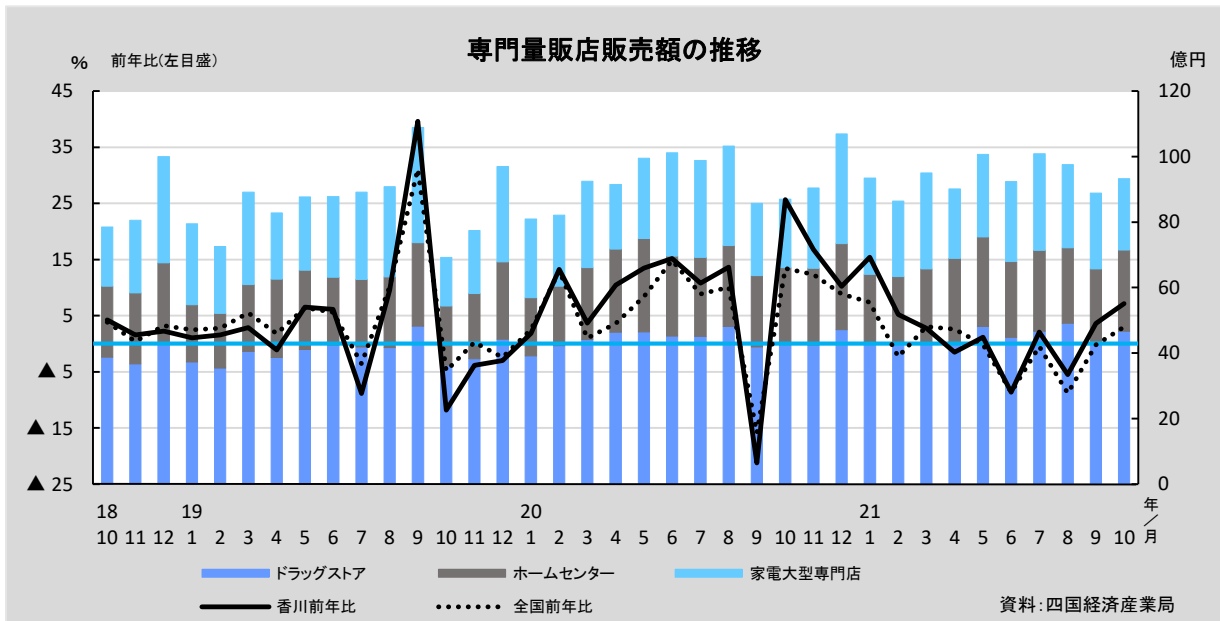
2 カ月連続増加 ↑



10月のコンビニエンスストア全店(409店)の販売額は61.8億円で、前年同月比+2.1%となった。ソフトドリンク、アイスクリーム、アルコール飲料などの動きが良く、2カ月連続で増加となった。

● 専門量販店販売額

2 カ月連続増加 ↑

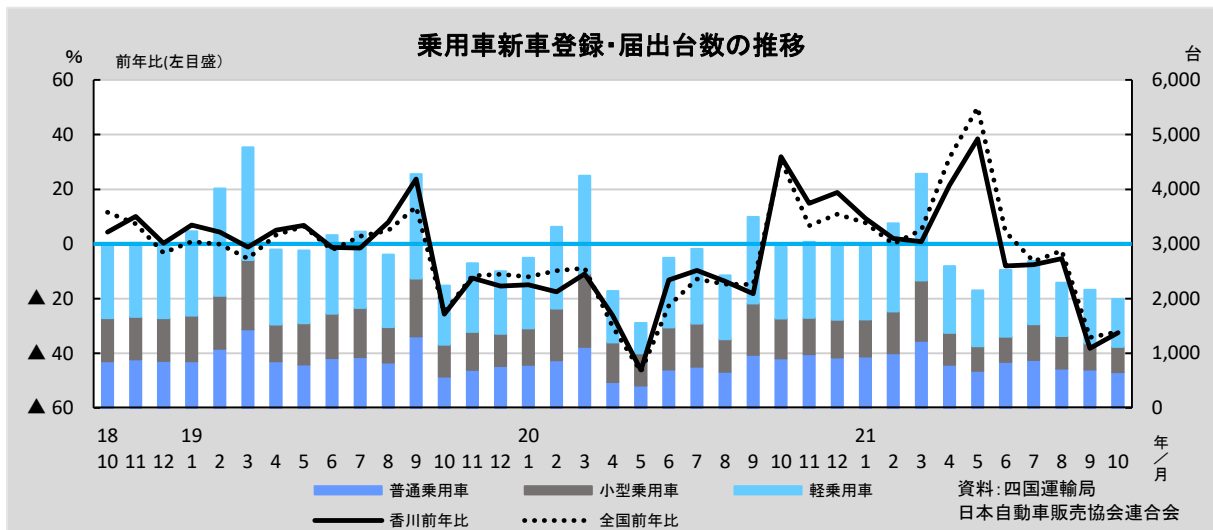


10月の専門量販店全店（204店）の販売額は93.2億円で、前年同月比+7.1%と2カ月連続で増加した。

業態別にみると、携帯電話やエアコンが伸び家電大型専門店（28店）の販売額は、21.7億円で前年同月比+3.7%となった。ドラッグストア（131店）の販売額は、内食傾向が続き冷凍食品や日焼け止めなどの季節商品が好調なため、46.7億円で同+9.6%。ホームセンター（45店）は巣ごもり需要で園芸用品が堅調に推移し、販売額は24.8億円で同+5.7%となった。

● 乗用車新車販売台数

5 カ月連続減少 ↓



10月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は1,992台で、半導体不足のほか、東南アジアのコロナ感染拡大で部品調達が滞り新車の生産停滞が続き、前年同月比▲32.5%と5カ月連続で減少した。

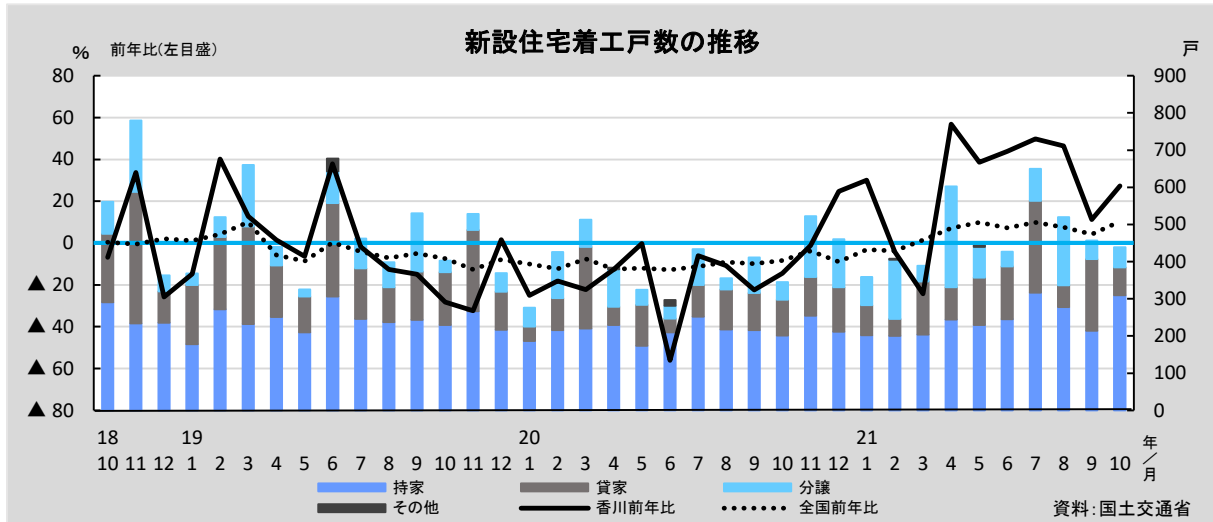
車種別にみると、普通乗用車で前年同月比▲27.5%、小型乗用車で同▲37.0%、軽乗用車で同▲33.3%となった。

住宅投資

持ち直しが続いている

●新設住宅着工

7カ月連続増加 ↑



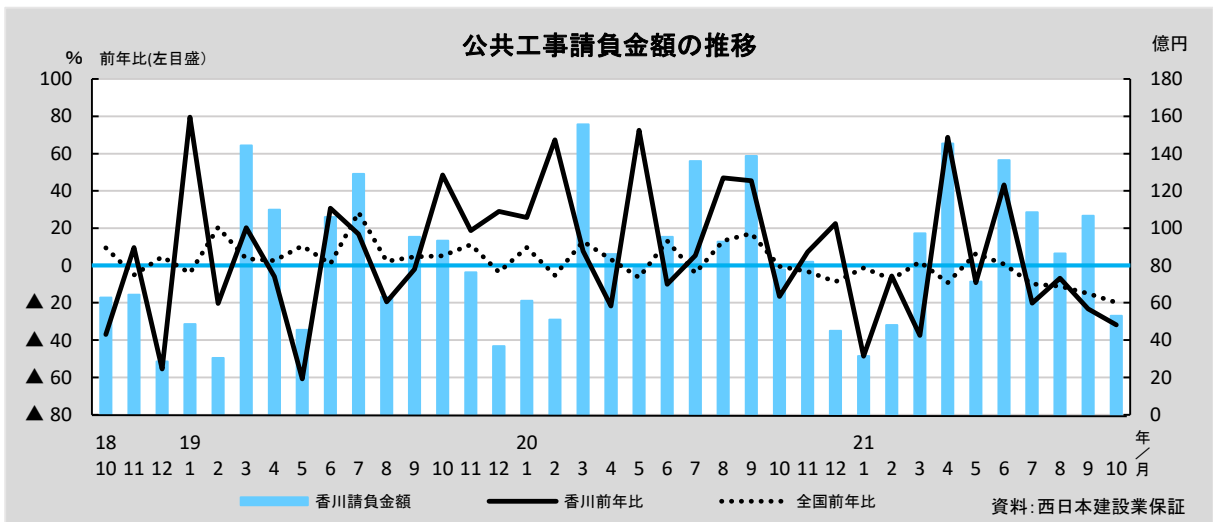
10月の新設住宅着工戸数は439戸で、前年同月比+27.2%と、7カ月連続で増加しました。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比+54.2%、**貸家**で同▲22.7%、**分譲住宅**で同+14.9%となった。

公共投資

減少している

●公共工事請負金額

4カ月連続減少 ↓



10月の公共工事請負金額は53.0億円で、前年同月比▲31.9%と4カ月連続で減少しました。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比▲75.6%、**県**で同+0.3%、**市町**で同▲39.1%となった。

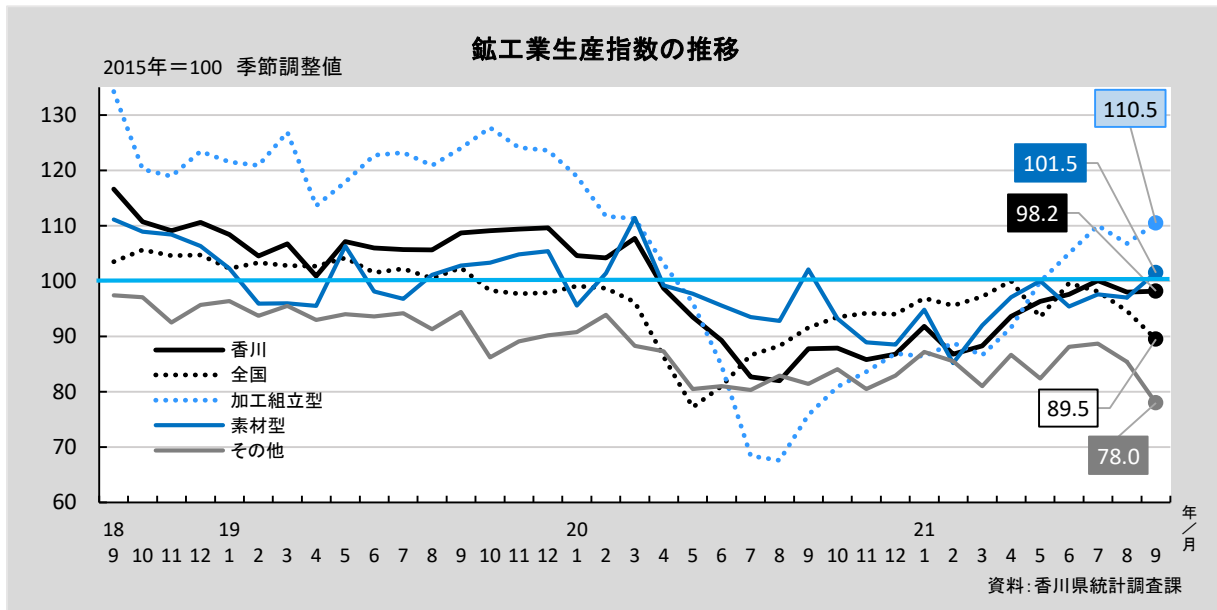
4~10月の累計では前年同期比0.4%増加している。

生産活動

持ち直しの動きが一服している

● 鉱工業生産指数

2カ月ぶり上昇 ↑



9月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は98.2（前月98.0）となり、2カ月ぶりに上昇した。

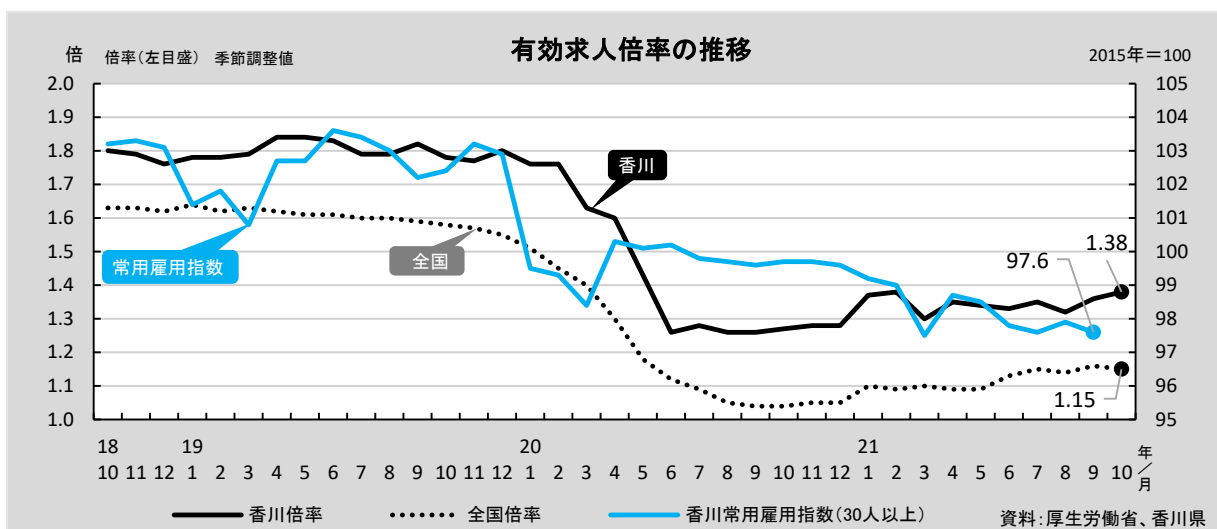
業種別では、素材型の化学・石油石炭製品工業（医薬品など）は前月比+24.3%、加工組立型の電気機械工業（開閉制御装置など）は同+7.5%と上昇した。一方、その他業種の食料品工業（食用油など）は同▲11.6%と低下した。

雇用情勢

弱い動きが続いている

● 有効求人倍率

2カ月連続上昇 ↑



10月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.38倍（全国9位）と前月より0.02ポイント上昇した。

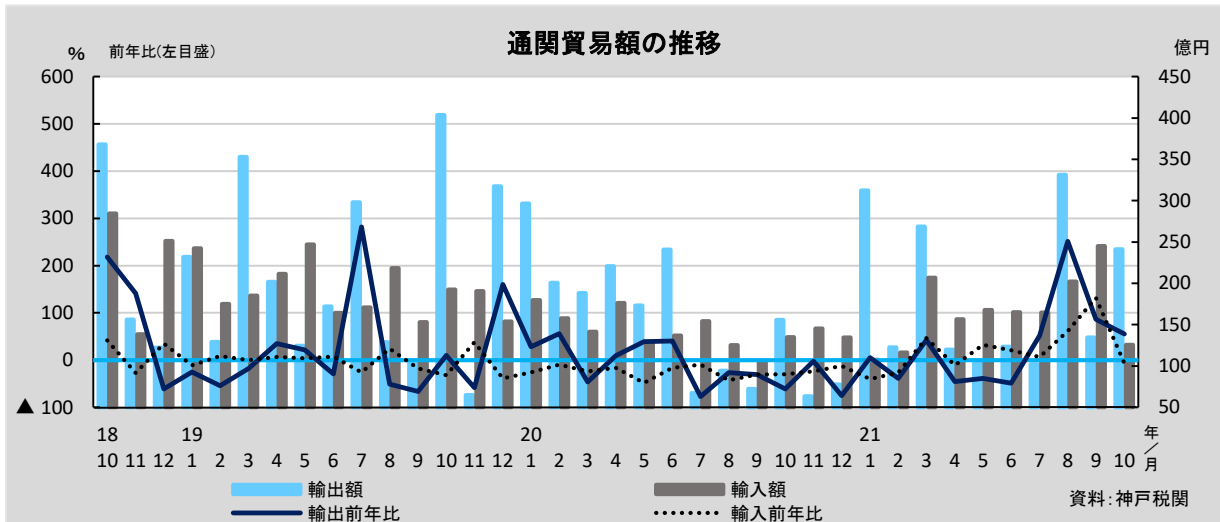
新規求人（原数値：前年同月比）は、金融業・保険業、鉱業・採石業・砂利採取業、農・林・漁業、教育・学習支援業等で増加し、全体で+1.0%と7カ月連続で増加した。

9月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、97.6となり、前年同月比は26カ月連続で低下した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	2.11
事務的職業	0.52
販売の職業	2.13
サービスの職業	3.19
生産工程の職業	2.14
輸送・機械運転の職業	2.27
建設・採掘の職業	6.24
運搬・清掃・包装等の職業	1.07

貿易

輸出は増加、輸入は減少している



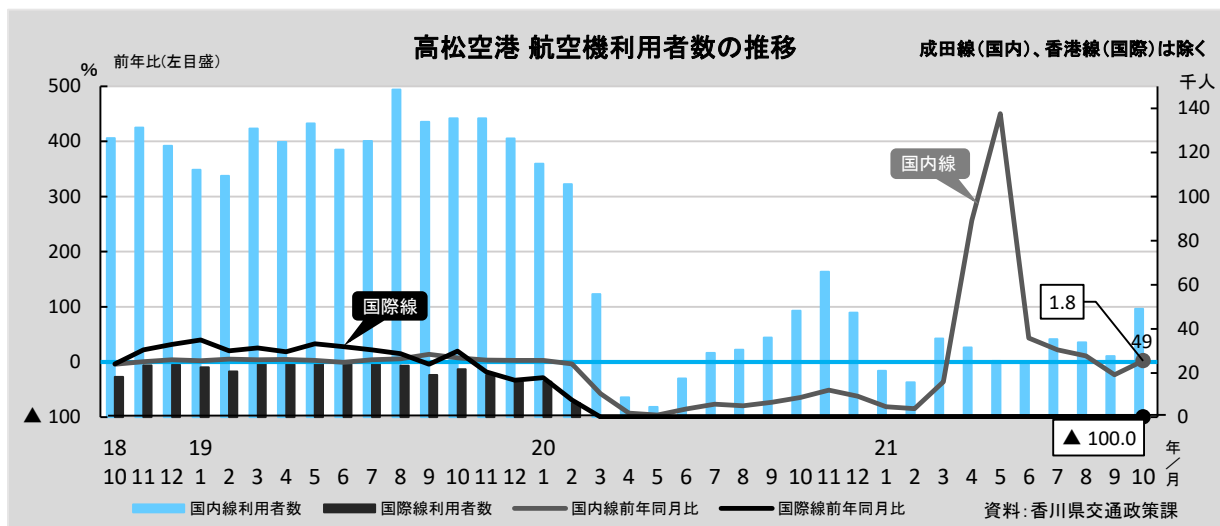
10月の輸出額は前年同月比+54.9%の241.3億円、輸入額は同▲6.9%の125.7億円となり、差し引き115.6億円の出超となっています。

輸出は、前年同月ゼロだった貨物船輸出額が129億円となった。輸入は、前年同月15億だった液化天然ガス輸入額がゼロとなった。

交通

国内線は2カ月ぶり増加、国際線は20カ月連続全面運休

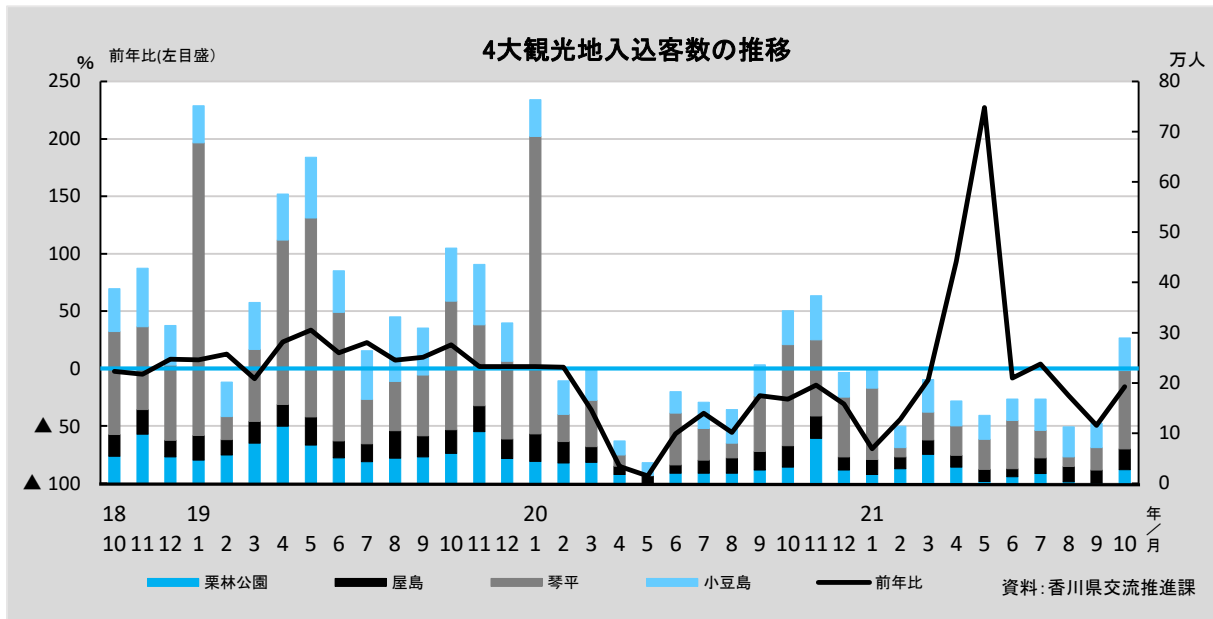
●高松空港旅客輸送実績



10月の航空機利用者数は、国内線（羽田・那覇線）が49,003人（前年同月比+1.8%）となり、2カ月ぶりに増加しました。羽田線は47,872人（前年同月比+4.6%）、那覇線は1,131人（同▲52.8%）となった。コロナ禍以前の2019年同月比は▲63.8%となった。

国際線（ソウル・上海・台北線）は新型コロナウイルスの影響により20カ月連続の全面運休となった。

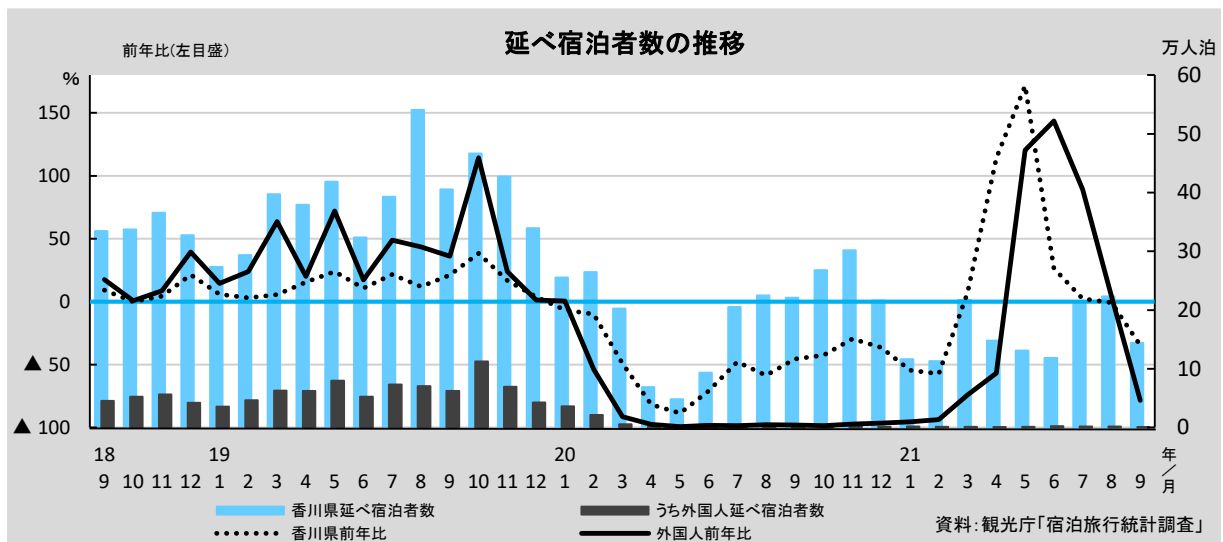
●主要観光地入込客数



観光地入込客数		栗林公園	屋島	琴平	小豆島	合計
10月(人)	前年同月比	27,443 ▲14.7%	41,127 ▲3.8%	156,000 ▲22.4%	64,705 ▲4.3%	289,275 ▲15.8%
1~10月累計(人)		205,283 ▲22.2%	273,982 ▲12.7%	705,000 ▲44.3%	522,438 ▲5.2%	1,706,703 ▲28.7%

10月の主要観光地の入込客数は、前年同月比▲15.8%と3カ月連続で減少した。まん延防止等重点措置が解除され、前月比では減少幅が縮小し持ち直しつつある。1~10月の累計では前年比▲28.7%となった。

●延べ宿泊者数



9月の延べ宿泊者数は144,350人で、前年同月比▲34.7%と2カ月連続で減少した。コロナ禍以前の2019年同月比では▲64.4%となった。

うち、外国人延べ宿泊者数は270人となり、前年同月比▲78.4%と5カ月ぶりに減少した。2019年同月比では▲99.6%となった。